

研究拠点形成事業 平成28年度 実施計画書

B. アジア・アフリカ学術基盤形成型

1. 拠点機関

日本側拠点機関：	東京慈恵会医科大学
(ナイジェリア) 拠点機関：	イバダン大学
(ブルキナファソ) 拠点機関：	マラリア研究研修センター

2. 研究交流課題名

(和文)： 西アフリカにおける感染症ベクター先端研究教育拠点

(交流分野：衛生動物学)

(英文)： Frontier program of vector-borne diseases in west africa

(交流分野：Medical Entomology)

研究交流課題に係るホームページ：<http://jikei-tropmed.jp>

3. 採用期間

平成26年4月1日 ～ 平成29年3月31日

(3年度目)

4. 実施体制

日本側実施組織

拠点機関：東京慈恵会医科大学

実施組織代表者(所属部局・職・氏名)：学長・松藤千弥

コーディネーター(所属部局・職・氏名)：医学部・教授・嘉糠洋陸

協力機関：帯広畜産大学

事務組織：学校法人慈恵大学 法人事務局 研究支援課

相手国側実施組織 (拠点機関名・協力機関名は、和英併記願います。)

(1) 国名：ナイジェリア

拠点機関：(英文) University of Ibadan

(和文) イバダン大学

コーディネーター(所属部局・職・氏名)：(英文) Institute for Advanced Medical Research and Training, College of Medicine・Research Fellow 1・OKORIE Patricia Nkem

協力機関：(英文) National Space Research and Development Agency

(和文) 国立宇宙研究開発庁

(2) 国名：ブルキナファソ

拠点機関：(英文) Centre National de Recherche et de Formation sur le Paludisme

(和文) マラリア研究研修センター

コーディネーター (所属部局・職・氏名)：(英文) Department of Medical Entomology · lab head · SAGNON N'Fale

協力機関：無し

5. 全期間を通じた研究交流目標

マラリア、フィラリア症、シャーガス病、西ナイル熱および日本脳炎等の疾患は、蚊やダニ、ハエなどの節足動物によって媒介される病原体由来の感染症（ベクター感染症）であり、人間および動物に対して世界的に大きな脅威となっている。これらの感染性疾患の多くは、その病原体保有動物（リザーバー）が家畜や野生動物であることから、病原体媒介節足動物（ベクター）によって橋渡しされるカテゴリーの人獣共通感染症として注目されている。本邦では、2012年にSFTS（重症熱性血小板減少症候群）が新興感染症として勃興し、その原因ウイルスの媒介者はマダニであることが明らかとなった。これら寄生虫やウイルス、細菌の感染拡大の可能性は否定できず、それらに関わる基盤研究の重要性は年々増している。これらを背景に、本研究交流課題は、節足動物をその主たる対象として、ベクター感染症を制御する先導的研究を進める拠点形成を目指すものである。

節足動物は、その体表面およびトポロジー的に外界である腸管内に多様な微生物群を持つことが知られている。殺虫剤耐性が問題となっているベクター節足動物の制御において、これらの微生物群を用いてベクターの“性質を変える”（パラトランスジェネシス：paratransgenesis）ことを目指した研究を展開する。特にマラリア媒介蚊の①マラリア原虫保有能（ベクターコンピテンシー）および②吸血時の宿主探知行動に着目し、真菌と腸内細菌による新規パラトランスジェネシスの基盤研究と前フィールド試験を本研究交流課題の骨格とする。これらの研究をシーズとしながら、感染症流行地域におけるフィールド活動経験豊富な医学系研究機関（ナイジェリア・イバダン大学医学部他）と、ベクター学において先端的基礎研究をリードする日本側研究機関（東京慈恵会医科大学他）の有機的連携を試みる。「モバイルユニット（機動的な研究教育単位）」により、双方の若手研究者育成を効率的におこなうとともに、新規パラトランスジェネシスの研究基盤構築を以て国際的ベクター研究拠点の設置と実質化を目標とする。

6. 前年度までの研究交流活動による目標達成状況

①共同研究：ブルキナファソ農村部の蚊生息定点観測ポイントからマラリア媒介蚊であるハマダラカの採集をおこない、それらの蚊から同定した真菌類の遺伝子レベルでの性状解析と接種実験を実施した。昆虫寄生性アナモルフ菌類をハマダラカおよびネッタインマカ等に感染させ、宿主探知行動等の解析をおこなったところ、ベクター種特異的な二酸化炭素・熱検知能の変化を見出すことに成功した。②セミナー・研究者交流：東京に於いてベ

クター感染症制御に関する第2回シンポジウムを開催した（於東京慈恵会医科大学）。西アフリカ側拠点機関研究者（ナイジェリア・ブルキナファソ）に加え、日本のベクター種研究者らの最先端研究成果が発表され、情報交換および共同研究実施の可能性を議論した。三カ国のコーディネーターと協力研究者による連絡会議を開催し、次年度以降の活動計画等を検討した。ブルキナファソにおいてベクター生物学に関する第2回ワークショップを開催した（於ワガドゥグ大学）。殺虫剤耐性を中心にした西アフリカ地域のベクター制御の課題を把握した。日本側拠点機関において西アフリカ側若手研究者らを招聘し、ベクター種を対象にした遺伝子診断技術等の研修を実施した。

7. 平成28年度研究交流目標

＜研究協力体制の構築＞

前年度に引き続き、東京に於いてベクター感染症制御に関する第3回シンポジウムを開催する。西アフリカに於いてベクター生物学に関する第3回ワークショップを開催する。西アフリカ側拠点機関および日本側拠点機関・協力機関からの参加者を中心に、アジア地域の衛生動物学研究者を加えた討論の場とする。同時に双方のコーディネーターと協力研究者による連絡会議を開催する。

＜学術的観点＞

西アフリカ拠点機関が保有する感染症流行地域のハマダラカ生息エリアを対象に、特定微生物によるパラトランスジェネシスの効果を検証する。成虫のマラリア原虫保有率および期間毎のマラリア患者数等を中心に評価する。ハマダラカのヒト吸血嗜好性も同時に解析する。

＜若手研究者育成＞

西アフリカ側へ大学院博士課程学生またはポスドク等研究員を短期派遣し、「媒介蚊のDNA型と遺伝的複雑性」等に関するフィールド研修コースを実施する。日本側は西アフリカの若手研究者を短期受入れ、「媒介蚊のイメージング技術」等について分子ベクター学研修コースを開催する。

8. 平成28年度研究交流計画状況

8-1 共同研究

整理番号	R-1	研究開始年度	平成26年度	研究終了年度	平成28年度
研究課題名	(和文) ベクターにおける病原体-宿主-共生微生物叢の三者間相互作用解明 (英文) Analysis of vectorial competency regulated by interaction between parasite, vector, and microbes				
日本側代表者 氏名・所属・ 職	(和文) 嘉糠洋陸・東京慈恵会医科大学・教授 (英文) Hirotaka KANUKA・The Jikei University School of Medicine・Professor				

相手国側代表者氏名・所属・職	(英文) BADOLO Athanase・Centre National de Recherche et de Formation sur le Paludisme・Associate Professor
28年度の研究交流活動計画	西アフリカでの蚊生息定点観測エリアでは、幼虫生息域が水たまり群から構成されている。その地形の特徴から、継続して同じ場所に水が貯留すること、他の生態系(川や池など)から分断されていることが研究遂行にあたって有利となっている。また周辺地域はマラリア流行地域であり、相手側拠点機関ではマラリア患者数等の情報収集ネットワークが確立している。この地域のハマダラカを対象に、昆虫寄生性アナモルフ菌によるパラトランスジェネシスの効果を検証する。成虫のマラリア原虫保有率(CSタンパク質のELISAやPCR等)および期間毎のマラリア患者数等を中心に評価する。また、ハマダラカのヒト吸血嗜好性については、ヒト脛部を用いたマニュアル・キャッチングにより解析する。
28年度の研究交流活動から得られることが期待される成果	本邦のみならず世界各地で問題になっているベクターは全て吸血節足動物に分類される。その種類も蚊のみならずダニ、シラミ、ノミ、ハエ、ブユと多彩である。しかしどのベクターも自然環境にて生息する都合上、その体表および体内には多数の微生物が存在する。本研究交流活動から得られるハマダラカを対象にしたパラトランスジェネシスの成果は、他の種への外挿によってベクター種全体への適応を可能にすると期待される。

8-2 セミナー

整理番号	S-1
セミナー名	(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「第3回合同ワークショップ“ブルキナファソにおける節足動物媒介性感染症”」 (英文) JSPS Core-to-Core Program “The 3rd International Joint Workshop on Vector-Borne Diseases in Burkina Faso”
開催期間	平成28年12月7日～平成28年12月8日(2日間)
開催地(国名、都市名、会場名)	(和文) ブルキナファソ・ワガドゥグ・ワガドゥグ大学 (英文) Burkina Faso・Ougadougou・Amphitheater of UFR/SVT, Université de Ouagadougou
日本側開催責任者氏名・所属・職	(和文) 嘉糠洋陸・東京慈恵会医科大学・教授 (英文) Hirotaka KANUKA・The Jikei University School of Medicine・Professor
相手国側開催責任者氏名・所属・職 (※日本以外での開催の場合)	(英文) BADOLO Athanase・Centre National de Recherche et de Formation sur le Paludisme・Associate Professor

参加者数

派遣先 派遣元		セミナー開催国 (ブルキナファソ)
日本 〈人／人日〉	A.	6 / 60
	B.	0
ブルキナファソ 〈人／人日〉	A.	3 / 6
	B.	30
ナイジェリア 〈人／人日〉	A.	1 / 5
	B.	0
合計 〈人／人日〉	A.	10 / 71
	B.	30

A. 本事業参加者（参加研究者リストの研究者等）

B. 一般参加者（参加研究者リスト以外の研究者等）

※日数は、出張期間（渡航日、帰国日を含めた期間）としてください。これによりがたい場合は、備考欄を設け、注意書きを付してください。

セミナー開催の目的	西アフリカ・ブルキナファソに於いて病原体媒介節足動物に関する研究の第3回ワークショップを開催する。微生物によるパラトランスジェネシスの研究基盤開発研究について、日本側拠点機関および相手側拠点機関の双方による3年間の研究総括を実施する。同時に双方のコーディネーターと協力研究者により、今後の研究展開の実施体制や研究資金調達等について連絡会議を開催する。【備考】R-1と同時に実施する。													
期待される成果	本交流計画によって進められた研究により、ベクター種に対するパラトランスジェネシスについて、一定の学術的基盤が形成されつつある。その研究詳細について現地研究者等と情報交換することにより、より効果的な研究推進とそれを基盤としたさらなる交流の促進が期待される。													
セミナーの運営組織	相手国コーディネーターを中心に、ブルキナファソ国立マラリア研究・研修センターおよびワガドゥグ大学が開催運営を担当する。プログラム・外渉庶務・経理・広報等を協力研究者等が分担し、その一部を日本側拠点機関の事務組織（東京慈恵会医科大学研究支援課）が支援する。													
開催経費 分担内容	日本側	<table border="0"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>海外旅費</td> <td>2,200,000円</td> </tr> <tr> <td colspan="2">(うち2,000,000円分はR-1に計上)</td> </tr> <tr> <td>謝金</td> <td>50,000円</td> </tr> <tr> <td>その他経費（パンフレットなど）</td> <td>50,000円</td> </tr> <tr> <td>外国旅費等に係る消費税</td> <td>188,000円</td> </tr> </tbody> </table>	内容	金額	海外旅費	2,200,000円	(うち2,000,000円分はR-1に計上)		謝金	50,000円	その他経費（パンフレットなど）	50,000円	外国旅費等に係る消費税	188,000円
	内容	金額												
	海外旅費	2,200,000円												
(うち2,000,000円分はR-1に計上)														
謝金	50,000円													
その他経費（パンフレットなど）	50,000円													
外国旅費等に係る消費税	188,000円													
(ナイジェリア)側	<table border="0"> <thead> <tr> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>相手国内移動旅費</td> </tr> </tbody> </table>	内容	相手国内移動旅費											
内容														
相手国内移動旅費														
(ブルキナファソ)側	<table border="0"> <thead> <tr> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>相手国内移動旅費</td> </tr> </tbody> </table>	内容	相手国内移動旅費											
内容														
相手国内移動旅費														

整理番号	S-2
セミナー名	(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「第3回国際シンポジウム“病原体媒介節足動物研究の最前線”」 (英文) JSPS Core-to-Core Program The 3 rd Tokyo Vector Encounter “International Symposium on Frontier Science of Pathogen-transmitting Vectors”
開催期間	平成29年3月8日～平成29年3月9日(2日間)
開催地(国名、都市名、会場名)	(和文) 日本・東京・東京慈恵会医科大学 (英文) Japan・Tokyo・The Jikei University School of Medicine
日本側開催責任者氏名・所属・職	(和文) 嘉糠洋陸・東京慈恵会医科大学・教授 (英文) Hirotaka KANUKA・The Jikei University School of Medicine・Professor

参加者数

派遣先 派遣	セミナー開催国 (日本)	
	A.	B.
日本 〈人／人日〉	10/ 20	30
ナイジェリア 〈人／人日〉	1/ 7	0
ブルキナファソ 〈人／人日〉	1/ 7	0
合計 〈人／人日〉	12/ 34	30

- A. 本事業参加者(参加研究者リストの研究者等)
B. 一般参加者(参加研究者リスト以外の研究者等)

※日数は、出張期間(渡航日、帰国日を含めた期間)としてください。これによりがたい場合は、備考欄を設け、注意書きを付してください。

セミナー開催の目的	東京に於いて病原体媒介節足動物に関する最先端研究のシンポジウム(第3回)を開催する。西アフリカ側拠点機関および日本側拠点機関・協力機関からの参加者を中心に招聘し、最新の研究成果と情報を共有する。同時に双方のコーディネーターと協力研究者による連絡会議を開催する。最終年度にあたり、これまでの研究交流活動の総括として位置づける。
-----------	--

平成24～27年度採択課題

期待される成果	2014年に国内流行したデング熱に加え、前年度は南米を中心にジカ熱が流行し、本邦への輸入症例も増加傾向にある。これら蚊感染症についての有効な国内対策は少なく、統合的なベクター制御法の開発は喫緊の課題である。このような背景をもとに、ベクター感染症流行国におけるコントロール法について積極的な情報交換の場を提供することで、先進国と途上国を分け隔てない研究交流が可能になると期待される。		
セミナーの運営組織	日本側拠点機関に東京慈恵会医科大学衛生動物学研究センター内にシンポジウム事務局を置き、コーディネーターが運営を統括する。プログラム・外渉庶務・経理・広報等を協力研究者等が分担し、その一部を日本側拠点機関の事務組織（東京慈恵会医科大学研究支援課）が支援する。		
開催経費 分担内容	日本側	内容	金額
		海外招聘旅費	800,000円
		国内旅費	200,000円
		謝金	100,000円
		その他経費（パンフレットなど）	100,000円
		外国旅費等に係る消費税	88,000円
	(ナイジェリア)側	内容	
		相手国内移動旅費	
	(ブルキナファソ)側	内容	
		相手国内移動旅費	

8-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

所属・職名 派遣者名	派遣・受入先 (国・都市・機関)	派遣時期	用務・目的等
イバダン大学・(未定)・(未定)	日本・東京・東京慈恵会医科大学	7月	「媒介蚊のイメージング技術」に関する分子ベクター学研修コースへの参加
マラリア研究研修センター・(未定)・(未定)	日本・東京・東京慈恵会医科大学	7月	「媒介蚊のイメージング技術」に関する分子ベクター学研修コースへの参加
東京慈恵会医科大学・教授・嘉糠洋陸	ブルキナファソ・ワガドゥグ・マラリア研究研修センター	12月	「媒介蚊のDNA型と遺伝的複雑性」に関するフィールド研修コースの総括と実施担当
東京慈恵会医科大学・(未定)・(未定)	同上	同上	「媒介蚊のDNA型と遺伝的複雑性」に関するフィールド研修コースへの参加

8-4 中間評価の指摘事項等を踏まえた対応

該当しない

9. 平成28年度研究交流計画総人数・人日数

9-1 相手国との交流計画

派遣先 派遣	日本 〈人/人日〉	ナイジェリア 〈人/人日〉	ブルキナファソ 〈人/人日〉	合計 〈人/人日〉
日本 〈人/人日〉		0/0 (2/20)	8/80 (2/20)	8/80 (4/40)
ナイジェリア 〈人/人日〉	2/17 (0/0)		1/5 (0/0)	3/22 (0/0)
ブルキナファソ 〈人/人日〉	3/34 (0/0)	(0/0)		3/34 (0/0)
合計 〈人/人日〉	5/51 (0/0)	0/0 (2/20)	9/85 (2/20)	14/136 (4/40)

※各国別に、研究者交流・共同研究・セミナーにて交流する人数・人日数を記載してください。(なお、記入の仕方の詳細については「記入上の注意」を参考にしてください。)

※相手国側マッチングファンドなど、本事業経費によらない交流についても、カッコ書きで記入してください。

9-2 国内での交流計画

2/6〈人/人日〉

10. 平成28年度経費使用見込み額

(単位 円)

	経費内訳	金額	備考
研究交流経費	国内旅費	200,000	国内旅費、外国旅費の合計は、研究交流経費の50%以上であること。
	外国旅費	3,500,000	
	謝金	300,000	
	備品・消耗品購入費	2,200,000	
	その他の経費	280,000	
	外国旅費・謝金等に係る消費税	320,000	
	計	6,800,000	研究交流経費配分額以内であること。
業務委託手数料		680,000	研究交流経費の10%を上限とし、必要な額であること。また、消費税額は内額とする。